

講義名	対)ホテル事業計画論			
担当教員	高田 宏			
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

<p>主題と概要</p> <p>日本のホテル業界は2019年までの訪日観光客増を背景とした業績拡大期から2020年のコロナ禍による減益期へと大きく変わりました。今後どのような状況になっていくのかは、現時点では分からないのですが、日本の人口・産業構造から考えて、ホテルを含む観光業が長い目でみれば重要産業の一つであることは変わりありません。</p> <p>この授業では、「ホテル開発計画」を題材として初歩的なホテル経営と現状のホテル開発の実態・時代背景理解を目的としています。まず、ホテルの宿泊・料飲・宴会・婚礼部門の事業構造を、次に会計の基本知識習得を経て、ホテル経営指標を理解するために、ホテル独自の国際的管理会計基準である「ユニフォーム会計システム」の読み方、計算方法を学びます。計算方法を学びます。その際に実際のホテル会社の資料を使い、解説・実習を行います。</p> <p>その後ホテル経営会社・投資家の視点に立ち、ホテル開発の手法と現状のホテル開発がどのような時代背景があり、どのようなトレンドになっているかを解説していきます。</p> <p>*下段の「到達目標」には記載せず評価対象とはしないが、厚労省国家資格「ホテル・マネジメント技能検定 3級」受験者に向けて基礎学力をつけることも目標とします。 *「ホテル事業経営論」の事前履修が望ましい</p>

<p>到達目標</p> <p>到達目標は以下の通りです ホテル開発手法の理解を通し、ホテル計画に関する課題解決能力を身に付けることができるようになる。 ホテル開発における時代背景と経営者・投資家の視点が理解できるようになる。 損益計算書・ホテルの国際的な会計基準である「ユニフォーム会計システム」の基礎が理解できるようになる。</p>
<p>提出課題</p> <p>・ホテル開発、会計についての予習、復習課題を複数求めます (詳細内容は授業で公表) ・講義時間内に随時小試験の実施やレポートの提出を求めます。(詳細内容は授業で公表) *授業内で提示する課題、小テスト、アンケート収集に Google Forms を使用することがある。</p>

<p>課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック</p> <p>提出されたレポート等での疑問点や全員で共有すべき項目については後の授業内で公表します。</p>
--

<p>評価の基準</p> <p>・授業内で提示する課題・レポート類 40% ・学期末試験 60% *授業態度が注意しても改まらない場合は減点対象となる *授業内で提示する課題、小テスト、アンケート収集に Google Forms を使用することがある。</p>

<p>履修にあたっての注意・助言他</p> <p>履修を受けるということは、他の生徒への思いやり(ホスピタリティ精神)が必要です。ホスピタリティ産業について学ぶ学生にとっては必須です。授業の妨げになる他者との会話、スマホ等の使用、帽子・フードを身につけたままでの授業参加は不可。注意されなくても記録され減点の対象になります。</p>

<p>教科書</p> <p>.使用しない。</p>					
----------------------------------	--	--	--	--	--

<p>プリント資料及び参考文献</p> <p>・原則として授業は配布プリントで行います。 (参考文献)「米商ホテル会計基準」(税務経理協会) 「ホテル事業論」(英田雅臣) 「ホテルマネジメント 15のポイント」(銀行研修社)</p>

<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 講義概要の説明、ホテル業界の現状 宿泊部門の事業構造 料飲部門の事業構造 宴会・婚礼部門の事業構造 会計の基礎 初歩の損益計算書 ホテル管理会計 ユニフォーム会計 仕組み ホテル管理会計 ユニフォーム会計 部門別損益・GOP ホテル開発のトレンド ホテル開発の事例 ホテルの経営形態 ホテル開発 準備計画 ホテル開発 事業計画・投資者の視点 ホテルマネジメント・総支配人の役割 ホテル業界の今後、まとめ <p>注意事項 ・受講生が一時的に通学困難となった場合は、通学困難期間に限りオンデマンド授業を受講してください。 ・復帰後に全面的なオンデマンド授業への移行はないものとします。</p>

<p>授業形態(アクティブ・ラーニング)</p> <table border="1"> <tr> <td>ア:PBL(課題解決型学習)</td> <td>イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</td> </tr> <tr> <td>ウ:ディスカッション、ディベート</td> <td>エ:グループワーク</td> </tr> <tr> <td>オ:プレゼンテーション</td> <td>カ:実習、フィールドワーク</td> </tr> <tr> <td>キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)</td> <td></td> </tr> </table>	ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク	オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク	キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	
ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク							
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク							
キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)								

<p>準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>・予習 各回で指定する次回授業のための課題について調べ要点をまとめておく。(120分) *複数回、レポートとして提出を求める。</p> <p>・復習 受講した内容についての復習を行う。(120分) *複数回、レポートとして提出を求める。</p> <p>ホスピタリティ産業を学ぶ学生は好奇心を持って欲しい。講義で取り上げる課題についてだけでなく、そこから派生する事例について調べすることも重要です。 学生にとっては初めて聴く用語が多いので必ず予習復習をしてください。</p>

<p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</p> <p>到達目標を達成することでDPに貢献できる。ホテル開発について研究することによって、客観的に考える力をつけ、ホテルだけでなく広く観光・ホスピタリティ産業への就業につながる資質を養い、高い能力を発揮できる人財をつくる。</p>

<p>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</p> <p>・授業内でグループワークによるディスカッション、当方からの課題問いかけ、回答の機会を作る ・授業内で提示する課題、小テスト、アンケート収集に Google Forms を使用することがある</p>
--

<p>実務経験の有無及び活用</p> <p>実務経験あり ・1981年 株式会社ロイヤルホテル入社 (2019年3月 定年退職) ・「リーガロイヤルホテル東京」「都市センターホテル」「登大路ホテル奈良」と3ホテルの総支配人、ホテル開発部門、マーケティング部門を歴任してきており、その実務経験を活用しホテル経営の基礎理解のための手法を講義する。 ・またホテル業界に対する知見を活かし最近のホテル開発について解説を行う。</p>

<p>備考</p> <p>授業内で実際に計算演習を行います。電卓を用意してください。 授業内でGoogle Formsを使用する場合がありますのでスマートフォン・タブレット類を持参してください。</p> <p>注意事項 ・受講生が一時的に通学困難となった場合は、通学困難期間に限りオンデマンド授業を受講してください。 ・復帰後も全面的なオンデマンド授業への移行はないものとします。</p>
